

小学校校区の見直しを

通学特区を検討

問

人口変動の推計の公表が相次いでいます。
中長期的な人口減少と超高齢化が、日本全体で加速的に進む見通しです。
須恵町の人口は微増ですが、地区によって片寄っています。地域の課題を、地域住民が主体となって解決できる街づくりを目指すため、行政区の枠に捉われない小学校区再編についての考えをお尋ねします。

答 平松教育長

基本的な考え方としては、あくまでも現在の3校区割りは順守したいと考えています。そのうえで、通学距離や安全性を考え、校区の変更を行った方が適切な地域を通学特区として指定し、校区の変更を予定しています。
24年度中に関係行政区、子ども会育成会、PTAそれぞれの役員の方々と協議のうえ進めたいと考えています。
その協議の中で、子ども会活動の基盤が大きな問題にな



原野 敏彦 議員

るかと思いますが、須恵町は以前から校区コミュニティを進めていますので、子ども会育成会活動についても今後の

在り方を、社会教育課、まちづくり課を含めて協議していきます。



創立20周年を迎える須恵第三小学校

第二幼児園の運営方法は

公設公営でスタート

問

第二幼児園の造成工事も23年度から始まり、いよいよ25年4月の開園に向けて着々と工事が進行中です。子どもたちは新しい第二幼児園に入るのを楽しみに待っています。
運営方法について今一度どのようにお考えか、町長の答弁をお願いします。

答 中嶋町長

当初は民設民営で計画していましたが、国の総合子ども園施策の動向、土地の譲渡所

得に対する優遇措置等の関係で、開園当初は公設公営で出

発し、国の動向を見ながら民営化に移行していきたいと考えています。

保育所の定員が31名増員になり、幼稚園は3歳児保育ができますので、25名のクラスが1増となり、幼稚園の完全給食も実施します。

一体化までは原則として合同保育や合同の行事は行わず、幼稚園、保育所それぞれで行うようにしています。

幼稚園バスの運行を

導入は難しい

問

幼稚園バスの質問です。
近年の地球温暖化、ラニーニャ(※)の影響で豪雨は多く、夏は暑く、冬は極端に寒い、今日この頃です。

幼稚園の子どもたちの通園は大変だろうとお察しします。

町民のニーズに対応するために、幅広い公共的なサービスを提供することが期待されています。

いかがお考えですか。

答 平松教育長

25年度に、かやの保育所と東幼稚園が統合され5施設での運営を開始します。保護者の方々がそれぞれの園の特徴などを吟味し、希望される施設に入園できる自由選択制を採用しています。そこで園児バスを導入し、須恵町全体を網羅して希望される施設への送迎となると、時間的・人的配置および導入バス台数等の問題があり、不平等が生じるため、現時点での園児バスの導入は考えていません。



田原 重美 議員



工事が進む第二幼児園

※ラニーニャ現象
世界的な異常気象のひとつ。専門家の中にはこの現象が起これとその年の夏は猛暑になると考える人もいます。